令和５年度　静岡市在宅医療・介護連携協議会
第１回エンディングノート作成部会　会議録

１　日　時　令和５年７月４日（火）19：15～20：30

２　場　所　静岡市役所　新館９階　特別会議室

３　出席者　（出席）　岡 部会長、河西委員、坪井委員、近藤委員、中村（美）委員、平野委員
関係者：浅利委員
（オンライン）金原委員
関係者：稲葉委員、間淵委員
（欠席）　中村（敬）委員、成島委員
（事務局）　地域包括ケア・誰もが活躍推進本部　酒井次長
在宅医療・介護連携推進係　森川次長補佐、北原主任保健師、白鳥主任主事

４　傍聴者　０人

５　次　第　（１）開会
（２）委嘱状交付
（３）挨拶
（４）議事
①協議事項
エンディングノートの作成目的と内容について
（５）閉　会

６　会議内容
（１）開会　開会宣言及び会議成立の報告（委員 12 名中 10 名の出席により会議は成立）
（２）委嘱状交付
（３）挨拶　地域包括ケア・誰もが活躍推進本部　酒井
（４）議事　エンディングノートの作成目的と内容について

事務局
（協議事項）エンディングノートの作成目的と内容について　（資料１～２）の説明

平野委員
　他市のエンディングノートを拝見し、これは事務局へ聞いた方がいいのかもしれないが、宣伝が入っているのと宣伝が入っていなくＡＣＰを中心としたものがある。宣伝を入れる等はいつ決めるのか。

事務局
　本市としては、宣伝を入れない予定。

平野委員
　尾張旭市のものはよくできていて、見やすく、カラーで後ろに宣伝が少し入っているが、同じような形で作ると、商標権とかそういう縛りはないのか。

事務局
　出版社に確認した。まるっきり同じように作るのは、駄目。本市は、他市のノートを参考に必要な項目を盛り込みたい。盛り込む項目は、ある程度標準化されており、どこの市町のものにも必ず入っている項目があるため、項目については商標権の問題にはならないと思われる。

近藤委員
　事務局案のエンディングノートは、これをＡ４にして両刷りとなると、量が多いイメージである。

事務局
　今回41ページになってしまった。大部分は、自分史である。不要ならば、10ページ程少なくなる。他市のものは、チェックボックスで確認するといった簡単なものもあり、そのようにすればもっとページ数が少なくなるのかもしれない。量が増えたら、利用者が書く気が失せてしまうだろうというところも考えている。
　また、「終活ハローページ」として、終活に関する情報を集めた資料集も作りたい。ノートに書き込む方も大事だが、終活に関する情報をまとめたものも必要。その２つを１冊にまとめた方がいいのか、それとも２冊バラバラにした方がいいのかについても、検討していただきたい。

近藤委員
　介護職として、本人に書いていただくことを前提にすると、介護保険の申請書すら書けない方がほとんどなので、どうやって本人に書いてもらうか。もちろん代筆でもいいと思

うが、できれば本人が書けるように内容よりも量の方を皆さんで検討できたらよいのではないかと思った。

河西委員

私は、この自分史がいいなと思った。例えば、自分が亡くなる、病気になることを最初から書き始めるのは、精神的にも辛いと思われる。自分史の辺りから家族と一緒に記入する人も中にはいると思う。

量の問題と、医療と介護の部分を重要視すると考えたときに、その冊子を在宅で往診を受けているときは良いが、通院患者が、この冊子を持って行くのは現実的じゃないと思う。予算の問題もあると思うが、本にする必要があるのか。例えば、紙の状態で何かファイルに綴じ込むとかで必要なときだけ必要な情報だけ持ち歩ける形態にする等が考えられる。

常用薬の量が多く書ききれないため、お薬手帳と抱き合わせができるように、お薬手帳も入るようなポケットの付いたファイルでも作って、そこにこれを挟み込んで持ち歩けるようにしたらどうか等も考えられる。

最終的にこういう冊子にする必要があるのか。ファイルにするのか。または、データ版にするのか等、色々なバージョンを考えてみたらいいと思う。

中村（美）委員

資料１の２ページの（２）の②の一番下の方に、静岡市終活支援優良事業者認証事業と優良事業者の紹介っていうのがあるが、これは例えばどんなところを想定しいているのか。

事務局

終活支援事業として、家族の代わりに日常生活の支援をすることや、身元保証を行う等の生前事務と、葬儀の手続き等の死後事務を実施する事業者を想定している。

本市として、終活支援を進めていくにあたり２つの事業を行うこととした。一つは、この部会で実施しているエンディングノートの作成、もう一つが、終活支援優良事業者認証事業である。基準を満たす優良な事業者を認証し、地域包括支援センターでの相談等で市民に紹介する。また、このエンディングノートの資料として掲載を予定している。

浅利委員

市からの説明で活用の場は、在宅医療や介護の場ということなので、それをもとにイメージすると、例えば、介護保険者証が送られる65歳になった時に、自分が年を重ねていく姿をイメージすると考えたときに活用していければ、書ける方も多いだろうし興味を持つ方も多いと思う。そして、それをモットーにすると、先ほど河西委員や近藤委員からも発

言があったように、自分は今までこうだったな、自分はこんなことを大事にしてきたんだということをまず知ってもらいたい。それから、自分は今こんな状況なんだ、これから先、自分はこう考えていくというような段階で、あの冊子を使ってくれたらと思っている。

また、記入日を作っているが、記入内容あくまでも変わって良いことなので、訂正という意味で、ページに１つではなく、３つくらいあった方が良いのではないかと思う。

坪井委員

先ほど65歳以上の方を主にというような話で聞いたが、脳血管疾患で入院する方の年齢が若くなっているというところがあり、病院にいる人でも30代40代で、くも膜下出血を発症したとか50代で未婚の人で子供もなく、脳血管疾患で寝たきりになってしまって親族が後見人になるまでの間、面倒を見ている状況である。例えば入院費や、治療費の支払いを、その親族が立て替えをするというようなケースもあるので、65歳以上がメインだとは思うが、第２号被保険者の40代くらいから少しずつ書いていくのも良いと思う。

自分史が良いと思った。20代30代は、あまり細かくせずおおまかにしても良いのではないかと思った。

中村（美）委員

地域包括支援センターで関わる中で、身寄りのない高齢者のその後をどうするのか、本当に切実に困っている状況である。例えば65歳になると介護保険証が送られてくるが、その中にＱＲコードを読み込むでも簡単なエンディングノートのミニ版等、そういったものが同封されていて、考えるきっかけを作ってもらえたら良いと思う。

まだ介護が必要でない65歳以上の方が大勢いるが、これから先の人生どういうふうにしていこうか、介護はどんなふうに受けていこうかと考えるきっかけになってもらえたらありがたいと思う。

あまり難しいものを作ってしまうと、身寄りがなくて困る方等は、理解や記入が難しく、私達が間に入って進めることになる。本来は、私達が書くものではないので、本当に書きやすく、簡単で、量が少なく、皆の目に触れるような工夫も必要である。

一方で、とても意識の高い方は、地域包括支援センターに相談があって、自分が独り身で子供もいないので、どうしたら良いでしょうかという。そういうしっかりとした方には、エンディングノートを作ってもらえれば良いと思うので、ノートは２パターンあったら良いのではと考えてしまう。

間淵委員

今できるだけ簡単でシンプルなものという意見があったが、私もシンプルなものが作っていけたらと思っている。私は、看護師をやっているが、このエンディングノートは、誰

が誰のために書くものなのか、それを私達が使う時に、どんな使い方をするのか、きちんと自分の中において書いていかないといけない。

家族のいる方は、家族と一緒に楽しみながら書くのも一つの方法論であっていいと思う。しかし、おおむね困る方は独居の方なので、そういう方は、量的にも多く、内容的も複雑で、見るだけでもうげんなりしてしまい、書かなくなってしまうこともあるので、必要なことは何かということを常に忘れずに議論しながら、できる限りシンプルなものが良いのではないかと思う。

そうすると、自分を振り返ってこれから過去、現在、未来と書くことは大事かもしれないが、今回このように幼少期からずっと振り返って書くのは辛いと思うところもあり、同僚と話した時も、自分史はあんまり細かく書くのは抵抗感があるという意見がほとんどであった。自分史が必要でないことではないが、細かくし過ぎると大変なので、年表的に書けるものである等、形式を考えながら書かけるものにする工夫すれば良いと思う。

どういう情報があれば、在宅の支援がしやすいのか、本人にとって役に立つものなのかを常に問いかけながら作っていきたいと思う。

河西委員

保険証を活用できたらと思っている。島田市の資料の中で、切れてカードになる部分があり、ここに医師が一番知りたい情報である延命治療の希望と、リビングウィル作成の有無が書いてあり、意思表示になっている。カードタイプで何かに入れてくださいと書いてあり良い工夫と思った。

自分史の部分だが、すごろくのようになっているものがあった。Ａ３サイズ１枚で収まっており良いものと思った。

岡 部会長

病院で必要な項目は、延命治療に関することである。お金に絡むことだと弁護士に入ってもらったり、成年後見人を活用する等、独居の方たちの対応も考える必要がある。それぞれの立場でニーズが違うかもしれない。その中で、どういうものを作っていくか。その場面で必要な人が必要な情報を閲覧するというスタイルを考えて、決めていく必要がある。

平野委員

私も皆さんの意見を聞いていて、シンプルにしていく方が良いだろう思う。河西委員からもあったような、この事前指示書リビングウィルのところに関して言うと、書くのはいいが多分病院でも救急の現場でもこの書類は実際に見ない。それは、最後は連れてきた人、救急隊員や、家族、ケアマネジャー等に聞いている。書いてあるものに医者は信用を置いていない。

救急の現場では、そのリビングウィルは使わないので確認をする。リビングウィルは入れなくても良いと思っている。また、先ほど間淵委員からもあったように、自分史に関して言うと、尾張旭市の資料が良いと思う。書きたいところから書ける。独居の方に介入したケアマネジャーも、これを活用できると思う。自分史に関しては、見開きで十分と思う。あとは、シンプルにしていくために、家族がいる場合には、家族が書きやすいような、ある程度の情報が入れられるものにしていくのも大事である。独居高齢者等で、あまり多くのことを語ってくれない場合は、自分史のことを聞くことで支援に活用できる。また、もしもの時に伝えたい人の情報は大事なため、入れるべきと思う。

坪井委員

中村委員から簡単なものがあると良いという話を伺って、今、独居高齢者等にＳ救セット事業がある。あの中に、延命治療等の意思決定事項が書けるのも良いと思った。

近藤委員

静岡ケアマネット協会でも、プロジェクトチームというのを立ち上げた。先程、中村委員が言ったように、介護保険証が交付されたら、先のことを考える。一番最初のきっかけになり、実感が湧くと思うので、介護保険証の交付を活用できないかという意見が出た。

岡 部会長

今後のスケジュールや段取りを考えなくてはいけないと思う。また、どこで使うのかと、最小限どこで使ってほしいか、そして何が大事なのか、本当に必要なものは何か。困らないように最終段階を安らかに迎えていってもらうために何が必要か。プラス、もし希望があったらそういうことを書き込めるようにするのかどうか、そして誰に見てもらうのかというようなことを、もう１回考えて、プロジェクトの中で、やっていく方法がいいのではないかと思う。この会の進め方に関して意見があれば、伺いたいと思うがいかがか。

平野委員

進め方というよりも、会がタイトなので、次の会は、一応参考に市の方で医療内容の修正と書いてあるが、そこの修正を、色々資料を参考にして市の案で作ってもらい、みんなで決めることからスタートしてはいかがか。

岡 部会長

この資料をもとにして、持ち帰って見ていただき、それぞれの意見を事務局に出してもらい、それを用いながら期日をある程度決めて、その回答を見ながら次の回のときに、皆さんにその結果をお知らせしながら、会で考えて、イメージを作っていくというような作業の方法にしていけたらどうかと思うが、事務局としては、今のようなやり方は可能か。

事務局

今の意見で反対がなければ、この後、意見表を作成し、皆さんから意見を集めて、今日出た意見も取り入れ、それを基に事務局案を作り第２回目に提示するということでよろしいか。

岡 部会長

例えば、回答した個々の委員の方々のものをみんなで回し読みしてもよろしいか。名前を出していい人は名前を書いて意見を出してもらうことで良いか。

本音を聞きながら、探り合っていき、今年度中に完成させたいためぜひ協力をお願いしたい。

エンディングノートの案、そして、いくつかもらった資料を見ながら、用紙に記載してもらえればありがたい。

事務局

皆さんにお見せしたエンディングノートは、各市町から独自に送ってもらったものもあるが、静岡県庁のホームページからダウンロードしてきたものもあり、静岡県、エンディングノートと検索すると、そこからリンクできるようになっているので、参考に見ていただきたい。

提案にありました意見表を送らせていただくので、回答いただいたものを事務局でまとめて、皆さんに情報共有させていただき、第２回目で、また議論していく形で進めたい。

（５）閉会

■会議録確認署名

「令和５年度　静岡市在宅医療・介護連携協議会　第１回エンディングノート作成部会　会議録」について、内容を確認しました。

静岡市在宅医療・介護連携協議会　エンディングノート作成部会　部会長

氏名（署名）　岡崎一郎